

映画が紡ぐ豊かな人生

岐阜市でJTフォーラム、150人聴講

「JTフォーラム」ひとときを、想う。」(岐阜新聞社、岐阜放送主催、JT協賛)が26日、岐阜市長良福光の都ホテル岐阜長良川で開かれた。映画監督で脚本家の中村義洋さんと、映画コメンテーターの有村昆さんがそれぞれ映画の魅力を語り、約150人の来場者が耳を傾けた。

有村昆さん「観客の批評が魅力」

中村義洋監督 県内ロケ振り返る



地方で行う映画ロケの魅力を語る中村義洋監督(左)と、映画を用いた地域振興や観光振興について語る有村昆さん＝岐阜市長良福光、都ホテル岐阜長良川

中村さんは「『想い』を映画にする」と題してトークショーに登壇。岐阜大病院でロケを行い、救命救急の現場を描いた映画「ジェネラル・ルージュの凱旋」(2009年)について、「笑っている間に大事なメッセージや深刻なテーマを理解してもらえよう制作した」と振り返り、「医師の皆さんから『これを言っていたはず』との反応があった。自分が制作した中では一、二を争うくらい好きな作品」と話した。また、公開を控える映画「決算!忠臣蔵」に込めた思いや撮影秘話を語った。

有村さんは「映画で素敵なひとときを」作品の裏テーマを探せ!」と題して講演した。人の悩みが七つに分類されるとして、「生き方」や「お金」など悩みの種類に応じたお薦めの映

画を提案したほか、ディズニーのアニメ映画が描くテーマが、時代の変化を先取りしている点などを軽妙な語り口で紹介。「映画は、映画館を出た後に友人同士などで感想を語り合う『批評の批評』が一番面白い。映画を通じて豊かな人生を送ってほしい」とアドバイスした。

また、県観光国際戦略アドバイザーの古田菜穂子さんも交え、「映画を用いた地域・観光振興」とのテーマでパネルディスカッションを行い、地方でロケをする魅力や地域への効果について意見交換した。